

温古知新③4 菜根譚 6 1

笑顔礼讃西東

『朱鷺』里山句会 (新潟県・佐渡市) 2 3

上村シマ (新潟県・新潟市) 4

投稿作品 5 8

心に残った作品 8

お客様の『リレーエッセイ』湯浅美登利 9

詠み人スクランブル

(6月に祝日をつくるとしたら何の日になりますか?) 10 11

食楽句案のすすめ(2) 14

ニユースあれこれ 15

詠み人の『リレーエッセイ』歌人目黒哲朗 16

6

June
Vol.80

*
「喜怒哀楽」は、
文芸を楽しむ方々の
活力の源を目指し
(株)ミューズ・コーポレーション
喜怒哀楽書房が
隔月発行している
情報誌です。

喜怒哀楽

詠み人応援マガジン
詩歌俳柳壇ニユース



前回は、普段の生活の大切さを説いた21項までご紹介しました。さて今回は……。

動を好む者は、雲電風灯、寂を嗜むは、死灰槁木なり。須く定雲止水の中に、鳶飛び魚躍るの氣象あるべくして、纒めて是は有道の心体なり。

(動くことを好む者は、雲間に轟く雷鳴や風に揺れるともし火のようだ。静けさを好む者は、動かない雲や流れない水のように。大事なものは、鳶が飛び、魚が躍るような好機を捉えるまで動かず、好機と解れば動くのが正しい心のありかただ。)

むやみに動かず、ここぞという時に動ける人がチャンスをつかむ、ということですね。

人の悪を攻むるは、太にも厳なることなかれ、その受くるに堪えんことを思うを要す。人に教うるにも善を以てするは、高きに過ぐるることなかれ、当にそれをして従うべからしむべし。

(他人の悪さを攻める時は厳しすぎではいけない。相手が受け入れられるかどうか考えるべき。人に良いことをしてもらおうとする時は、過剰に期待をせず、相手が出来る程度にしなければならぬ。)

指示や指導をする際は、その人に合わせて。むやみに恨みを買うような言動は慎まなければなりません。

糞虫は至穢なるも、変じて蟬となりて露を秋風に飲む。腐草は光なきも、化して螢となりて采を夏月に耀かす。周に知る、潔きは常に汚れより出で、明るきは毎に晦より生ずるを。

(堆肥で湧いた虫は極めて汚いが、変身すれば蟬になり、秋風の中で露を飲む。腐った草に光はないが、変身して螢になり、夏の月夜に光彩を輝かす。清いものは、汚れたものから生まれ、明るいものは、暗いものから生まれる。)

目先だけにとらわれず、先を見越して接すること。その先の可能性まで考えて接するべきと言う事でしょうか。

矜高倨傲は、客氣にあらざるはなし。客氣を降伏し得下して、而後に正氣は伸ぶ。情欲意識は、尽く妄心に属す。妄心を消殺し得尽くして、而後に真心は現わる。

(驕りや傲慢は空元気に過ぎず、それを押さえてこそ、本当の元気が芽生えだす。情欲や打算的な知恵はすべて妄信で、それを完全に消滅できてこそ、本当の真心が表れる。)

心のうちの感情を制することが出来てこそ良き人生を歩めるのでしよう。

一時の感情に惑わされず、真の真心を發揮できるようによき人物になれるよう、心してきましたね。
(古川久美子)

『朱鷺』里山句会

主宰 赤塚五行様 (新潟県佐渡市)

連絡先 / 〒952-1121

新潟県佐渡市泉乙628-1

5月26日、「ホーホケキョ」と鶯の鳴き声が聞こえるうららかな午後、新潟は佐渡島で行われた『朱鷺』の里山句会にお邪魔しました。新潟市からはカーフェリーで2時間半、時速80kmの超高速船ジェットfoilで55分の佐渡は、近いような遠いような島。両津港から車で30分、金井地区の小高い丘の中腹にある句会場には、燦々と光と心地よい風が吹きそそぎ、大きな窓からは里山の景が一面に見渡せる。



▲様々なことに精通する五行主宰は特に野鳥に詳しい鳥博士

本日は5句投句の50句から4句選、うち特選1句を選ぶ。主宰は特選3句。始めに一昨日開催された「佐渡俳句大会」の様子が伝えられ、「高得点句は好かれる句で佳句ではあるが、名句かどうかはわからない。いい句は省略があるから、句会でパッと見ただけではその深みがわからないこともある」

の言葉に勇気を得て、選句発表、点盛り、各人の選評、主宰の講評へと続く。

◎8点句

はつ夏の風の匂ひの幼かな

和恵

はつ夏も風の匂ひも幼も、みんな柔らかい感じがしていいなと一読して、風の匂いがするような爽やかな句で、小さい子どもの雰囲気と初夏の風の匂いがピタッと合っている／駈けてくるとき風の匂いが、走り始めたたくらいの子どもと一緒に胸元に飛び込んできたのかな、初夏が効いている。

赤塚・特選にしようか迷ったが「風の匂ひ」は、よく見るので新鮮味という点でどうか、と。夏の初めの風の匂ひなのか子どもの匂ひなのか、微妙なその時期の匂ひをよく捉えている。最高点になるのも解る。

◎5点句

青嵐や一輝の墓の供花赤し

智弘

青嵐と一輝の人生と赤い供花が響いてきて、すぐに特選にしようと思つた。赤塚・佐渡が生んだ革命の志士、※北一輝の墓に赤い花が供えてあつた。赤が鮮明でリズムも潔く、俳句の内容と合っている。青嵐でもいいが、青嵐や、で切つた方が、中七と下五が強調される。特選にいただきたい。

※戦前の日本の思想家、社会運動家、国家社会主義者。二・二六事件の理論的指導者として逮捕され刑死した。

オカリナの感触指に聖五月

憲忠

五月晴れの空に向かつてオカリナを吹く、清々しい感じが聖五月に象徴さ



▲季刊「朱鷺」のサブタイトルは「ときどき、ときどき」表紙もトキ

れている。

赤塚・私もオカリナを買って10年以上、いろいろやつてはみたものの今は飾つたまま。横笛やリコーダーも指に感触があるが、オカリナは指に痕がつき、吹いていなくとも何かの拍子に指に感じる。オカリナのカ、感触のカ、で、指に鮮明に感触が伝わってくるよう。聖五月も含め、リズムもいいし作者が感じたような感触を私も感じ特選に。

◎4点句

燕来て夫婦げんかの種ほぐす

よし子

私のところもそうだが、一方的に怒られて黙りこくることが多い(笑)。「種ほぐす」がよくわからなかった／これが一番生活に密着しとるなと、現実感があつた(笑)／二人の間にわだかまりがあつて、そんな時ふつと見上げたら燕がサツと来て、こたわつていたものがほぐれた。うちもしよつちゅうやつてるから(笑)。

赤塚・自分の経験にマッチしていると採りたくなる。しよつちゅうやつている人たちが採つたんだな(笑)。種が気になつたが、他にいい言葉がありそう。

探したき心の置き場春愁ひ

進

そんなことあるなと共感していたのだ／春の気持ちの置き所を探しな

がら、でもそんなに深刻ではないという気がした。

赤塚・上五と中七で「春愁ひ」の説明になつているから、季語を別のものにした方がいい。例えば「若葉風」とすれば、少し肌寒い湿っぽい風を受けていると、自分の気持ちをどこに置いたらいのかと、感じている様子が出せる。

夫大事われなほ大事尊食む

明子

私も畑で苺を摘まんで食べる。お父さんも大事だけどもまず自分が大事／それは、お父さんの分の苺は残さないうつてこと(笑)。「われなほ大事」がおもしろい。

赤塚・男性陣は「夫」の字を「妻」に代えればいいね(笑)。「夫」は大事だけど、自分あつての「夫」だと。他の季語でもいい気がするが、これでいい。特選。

◎3点句

ペランダの一つの空の鯉のぼり

和美

都会のビルの林立している中のマンション。田舎とは違い、そこから見え



▲のどかな里山の風景

笑顔礼讃西東

る限りの空に鯉のぼりが上がっている／子どもたち一人ひとりに、一つひとつの空があるようにいい。

赤塚・ペランダの小さな鯉のぼりだが、子どもにとっては大きい鯉のぼり。その上に広がっている空は、自分だけの空があるようで楽しい。感覚のいい作品。

今日はまあ行く先ぎの燕かな 儀一

一茶の「これがまあ終の栖か雪五尺」を思い出したが、今はどこにいてもス／イスイと燕が飛んでいて初夏だなーと／しばらくすればどこにでもいて珍しくもないから、これは初燕のことを言っていると思う。

赤塚…ただ、そこは「初燕」と言わなくていい。今日初めて燕を見た、よそに行くところでも見た。みんな一緒に島に渡ってきたんだな、ということが「燕来る」や「初燕」と言わなくてもわかる。

皆揃ふ日を待ち肴飯を炊く 美知子

肴飯が字余りで気になったが、みんなが集まった日に…という母の優しい心情が出ている／松茸ご飯でもお寿司でもいいかと思つたが、皆が揃う久しさが肴飯くらいでちょうどよく、温かい印象をもった。句またがりが面白い。

五月晴れ平野見渡す義民殿 克一

佐渡の五月晴れの豊かな国中平野を見おろせば、義民の方も自分のした仕事の甲斐もあつたという思いであろうし、いま生きている島の人間からすれば、おかげさまでこんな素晴らしい佐渡の遺産を手にすることができました。

というお礼と報告の意味も汲み取れて好きな句。

赤塚…新しくできた義民殿にまだ行ったことはないが、寄付を募って建てたということ。今こうして米をつくることができ、代田には山々も映って、いろいろな感謝の気持ちのぼれるいい句。

純白のテーブルクロス夏は来ぬ 憲忠

純白のテーブルクロスに、夏が来る清新で新鮮な感じが表現されている。

◎他の句

朝燕洗ひたてなる大空へ 明子

夜、大雨が降った翌朝の様子を「洗ひたてなる」と。その表現がすばらしくていただいた。アのリズムもいい。

球拾ひのみの練習青葉風 美知子

赤塚…主に3年生が練習していれば、入ったばかりの1年生は草むらに入つた球を探しに行くなど、練習も主に球拾い。ちょっと悲しいが、一日元氣



にがんばつた様子が伝わってくる。作句して時々庭の金魚草 よし子

赤塚…今日は締切りだから2、3句作ろう、と思つた割に気分転換ばかりしているということか。「作句して」が説明的なので、「句作りや」として切つた方がいい。「くもり時々はれ」みたいで面白い。

磯鳥のさらに小走り立夏かな 明子

赤塚…佐渡にはイソヒヨドリやイソシギ、ミサゴ、チドリ等、海鳥がたくさんいるが、これはチドリだと思つ。「千鳥足」というが、砂浜を走る様子はそんなものではなくツツツと、とても早い。「夏来る」の方が動きが出る。ミサゴの英訳名はオスプレイ。飛びながら空中で止まり（ホバリング）、急降下してボラを捕る。この水平離着陸ができるミサゴの性質から、軍用機をオスプレイと命名した。

雉子翔つや不意の出会いの山畑 儀一

私も雉子に遭遇したことがあり、その時のことを思い出して。

赤塚…国鳥の雉子は愛情が深く、子どもが大事だから卵を抱いたまま人が来ても逃げない。だから不意の出会いがよくある。地面に卵を産むのでテンや蛇に狙われやすく、そのために卵から孵ると早く歩き出す。自然の摂理でよくできている。

鬼太鼓島を響かす春祭

たけなはの鬼太鼓に酔ふ島の春

掛け声の社ゆるがす鬼太鼓

赤塚…「鬼太鼓」は最近春の季語とし



▲句会終了後には懇親会も

★毎月の句会の前に句稿をつくり、各人はよく吟味したうえで選をし、疑問点を整理して会に臨む。すべては短い句会の時間をより有意義に使い、皆さんに上達してほしいという主宰の願いから、アイディアマンで情熱家で、佐渡の文芸を広く深く耕しつないでいくために走り続ける五行主宰。島の中学生や「鼓童」の研修生にも長く俳句を指導している。投句集も土の匂いのする、自然と共生している句の多さに目をみはる。いみじくも『朱鷺』24号の一節に「海や山、花や虫、町や人に感謝して、挨拶するように句ができたらいいですね」とある。懇切丁寧な指導が奏功し、師の想いを踏襲した句が次々に生み出されている。朱鷺の学名は「ニッポニア ニッポン」。美しい日本語で詠いさえずり、大空に舞う姿を想い描いてみる。（木戸敦子）

上村シマ様

(新潟県・新潟市)

『生きた証しに』
『生きた証しにII』

2013年11月に句集『生きた証しに』、2015年2月に句集『生きた証しにII』を発行された現役の美容室オーナー、上村シマさんにお話を聞きしました。

Q 美容師になりたかったのですか？

美容師というより、職業婦人になりたかった。自分が働いたお金でご飯を食べたかったから。出身は昔は梨、今は葡萄づくりが盛んな西蒲原郡中之口村の農家で1男5女の2番目。父親には特に反対されたが、高校を卒業して美容専門学校へ。その後は、住み込みで働いたが、人の倍は努力したから4年もすると一通りのことはできるようになった。衣食住の保証はあるが、給料はないに等しかったこともあり、父に「店を出したい」と嘆願した。たまたま父の知り合いが、この店の場所が



▲今は歌舞伎に夢中という上村シマさん

売りに出ていると紹介してくれ、23歳で店を出した。

何もわからないのね。自分の名前をとって「シマ美容室」にしようと思っただが、知人がお参りにつれていって、その先生が「ホーム美容室」になさいと。「どういう意味ですか？」と尋ねても「そんなことを知る必要はない」と怒られ、いまだにわからないまま(笑)。

Q 開店後はいかがでしたか？

お客さまは誰もいなくて、ものすごくみじめな開店だった。専門学校の同級生がオープンした店に会いに行くと、母校近くの自宅で開店し、近所の人や同級生らが多く来店して忙しくてご飯が食べられないほど。私はお金がなく、一食しか食べられないのに。半年はただ待つだけ。少しずつお客さんが来てくださり、あとは必死に働いた。

その後、24歳で結婚し、子どもができた家建てたりと、どんどん忙しくなったが、あの暇な日と思えば、借金もあつたし忙しいなんて言っていられない。銀行にお金を返しに行く際には、お札にアイロンかけて持っていた。「お金を貸してくれてありがとうごさいます」という気持ちもあるが、同じお札なら、きれいな方が気持ちいいじゃない。開店当初から現在まで、お客さまには新札しか返したことがない。お金に対する敬意と、お客さまに対する「ありがとう」の気持ちを新札に込めている。

Q その後は順風満帆で？

ところが30代であまりの忙しさに店



▲華やかなシマさんらしくバラの花があしらわれた装丁

で倒れた。嘔吐や食欲不振、脱力、筋肉の痙攣などが起こる病気で、何をしてもだめ、死ぬのを待つような状態だった。父の「畳の上で死なせてあげたいから」の言葉で実家に帰ると、田舎の町医者が「おれが治してやるっけ、こんなたくさんの薬はみんな捨てよ」と、たった薬一粒を置いて、その後は「今日はどうら？」と毎日顔を出してくれた。

少しずつ回復して、あとはまた、がむしゃらに働いて2店舗目を出した。今でこそ家族だけで住んでいるが、住み込みの社員と24時間ずっと一緒に暮らしてきたから、ごたごたは日常茶飯事。あり過ぎて何を話していかわからない(笑)。あるとき「こんな切ない思いをするなら辞めたい」と妹にもらすと、妹は「母親の働く姿を思い出だすと、どんな苦勞もできる」と言い、頭を殴られた気がした。旅行に連れて行くと「畑にいるのがいち好きなのに、なんでこんげとこ連れてくんだ」と怒っていた母。母の子なのに、なんで辞

めたいだなんてバカなことを言ったのだらうと、それからは一切言わなくなった。

Q これからは？

第一句集は、難病と告げられた夫の看病をしているうちに私も体調を崩し、夫より先に逝くのではないかと、ならば生きた証しを残したい、と思ったから。俳句仲間が、選句を手伝うから…と背中を押してくれたこともありがたく感謝している。

一番大切なものは命と信用。夫亡きあとは、若い子たちに信用と技術をつけ、一人前の美容師として幸せにすることが私の生きがい。そのためには生涯現役でいたい。でも、今店長を任せているお嫁さんは大変かなあ(笑)。

天職と思ひ髪結ふ去年今年

草餅を焼く母さんの香ばしき

妻の座は今日でおしまひ梅雨の葬
迷はずに旅は吉野のさくらかな
一筋に髪結ひに生き梅真白

★背筋がシャンとして、無駄な肉も動きもなく颯爽としているシマさん。今は2つの店に顔を出しながら、お客さんや社員の話聞けば、ハサミも握り、店長であるお嫁さんと息子さん家族と一緒に暮らし皆を応援している。「人生七十古稀稀なり」だが、77歳でこういう生き方をしていく方はどんなに稀か。「木戸さん、大変な時代なんさ〜」と嘆いているようで、決して嘆いてなんかいないことがわかる。(木戸敦子)



※次回しめきり 2015年7月15日(水)まで
 たくさんのご投稿お待ちしております!
 ※作品は原稿どおりに掲載しております。

短歌

- 1 ギンギラに輝く夕日明日なれば朝日
となりてまた輝かん
清水英雄(東京都)
- 2 一票の格差の裁き否といえど選挙は
合というは不可思議
山田良男(埼玉県)
- 3 国会議員いみじくも言ふ「八紘一字」
我が日本魂とよくぞ通ずる
今井忠一(東京都)
- 4 東電と大本営はよく似てる嘘隠蔽に
上塗りをする 黒澤正行(福島県)
- 5 此の花はぢぢばばだよと教えたら春
蘭だよと孫は笑った
田中豊恵(新潟県)
- 6 通信簿すべてAほめられし孫娘は高
校合格桜も咲く 高須 孝(愛知県)
- 7 日中の友好来るはいつならむ君はや
咲かず中国の桃 土屋喜雄(山梨県)
- 8 終末期近づいてくる歳になり心静か
に過去想う日々 北澤実夫(東京都)
- 9 曼珠沙華恋する女の代名詞花の芯ま
で真っ赤に染まる
阿部澄江(宮城県)
- 10 縁日やはぐれ風船二つ三つ大空散歩
するが如くに 濱田イサオ(福岡県)
- 11 七十路の詩歌探究つくづくに教科書
を今も忘れず 早坂紘司(北海道)
- 12 母の手をふと見つめるとシワだらけ
頑張る母になみだがにじむ
渡部美代子(山形県)
- 13 押し花を残すは八十路のわが慣らひ
折々に見る花の貌美し
萬濃その子(神奈川県)
- 14 入水せし伯母の百年眠れるを墓標お
ぼろに春の夜の月
寒川靖子(香川県)

- 15 天災の犠牲者多しその上になぜ争い
に向うとするや 坂元正憲(東京都)
- 16 あるがまま自分でいいよ木々の声葉の
色彩は人生いろいろ
合田浩子(茨城県)
- 17 佗助の散り落ちてより幾日か鮮やか
な色保ちてをりぬ
小暮昭司(群馬県)
- 18 春の草音符のやうに伸び立ちてハミン
グしつち草取り励む
西山悌三郎(高知県)
- 19 鹿児島に突然降った白きひょう金平
糖がピンピン跳ねた
濱崎祥子(鹿児島県)
- 20 黄緑の花芽びつしり葉の裏に神の花
の白きが数多 黍嶋金平(愛知県)
- 21 御開帳寺賑わいて線香と読経のひび
き心なごます 高橋登志子(新潟県)
- 22 カップ麺もメニューに加え簡単に済ま
すときあらむ母の昼食
桑原謙一(群馬県)
- 23 限界はあと二年なり止めさす医師の
箴言に断酒の夫
音喜多千津子(埼玉県)
- 24 病む我を夫は花見に誘いし帝釈天足
並みそろわず老いし我あり
田中迪子(東京都)
- 25 うらぎりを責める心が萎えてゆく宇
宙さまよう瞳が愛し
岩崎令子(大阪府)
- 26 風かおる仙元山のマラマラ年がいつも
なくトップを走る新井 賢(埼玉県)
- 27 藤棚の下にもぐりて香りかぐ房をほ
ほ寄せ髪飾りにと
大鳥居牧子(東京都)

川柳

- 28 青い海どころかテロの海となる
原 崇雄(埼玉県)
- 29 ランドセル頭と手足ついて行く
石原 岳(群馬県)
- 30 大穴を針の穴から探り当て
近藤富夫(東京都)
- 31 空振りとエラーばかりの草野球
藤沢健二(千葉県)
- 32 ニューモード矯めつ眇めつ似合わない
山口千鶴子(東京都)
- 33 民宿の客は朝寝も義理のうち
青木日出男(群馬県)
- 34 自分とは自分知らない自分です
松田重信(埼玉県)
- 35 喜怒哀楽古稀を過ぎてても衰えず
橋本世紀男(東京都)
- 36 巢作りのからすが探す新建材
関本 守(新潟県)
- 37 夢枕回忌迎える母が立つ
細川光子(栃木県)
- 38 まだ元気波風立てる老い二人
守屋高雄(岩手県)
- 39 DMと役所以外は来ぬ手紙
木村誠一(神奈川県)
- 40 弥陀の手に任すと決めて染に住む
竹村穂夫(大阪府)
- 41 土色を緑に染めて田植えすむ
小山恵美子(大阪府)
- 42 一日を生かす殺すは気持から
松田義登(福岡県)
- 43 阿波とおわらの違い知りたし
奈倉楽甫(愛知県)
- 44 屋上でゴジラがのぞく歌舞伎町
石尾曠師朗(東京都)
- 45 風評の火種の罪とあおる罪
鈴木義雄(福島県)

- 46 散歩せずぶくぶく太る愛犬よ
大橋絵代(千葉県)
- 47 ナツメロに昭和の慕情湧いてくる
三宅得三(新潟県)
- 48 下手な文字それでも手紙心うち
小石澤英夫(東京都)
- 49 静かすぎ独居の隣家気にかかる
高松秋良(群馬県)
- 50 天寿全う母のえくぼに夢で会う
大久保アヤ子(東京都)
- 51 ほほとほほミラーボールがくつつける
奥田音野(香川県)
- 52 去年との違いは老の文字ひとつ
山崎一嘉(愛媛県)
- 53 雨風に散った花びらこそ散華
奥那於子(大阪府)
- 54 趣味じゃるか特技かも知れん貯める
クセ
和崎治人(山口県)
- 55 今年こそてっぺんを獲る予定です
高柳閑雲(愛知県)
- 56 ためいきの無い職場に行きたいな
大木和男(東京都)
- 57 今の日々まさしく光陰矢の如し
南喜美子(千葉県)
- 58 生かされる余白の地図を虹色に
岡本邦子(福岡県)
- 59 心配で豚も泣いてるTTP
福地義雄(沖縄県)
- 60 あの人に任せていたらどうなるの
長野光康(神奈川県)
- 61 新緑の真ん中に立つ溺れそう
小林恵子(大阪府)
- 62 見せたいなきれいですねと言われた
胃
目黒豊光(福島県)
- 63 露の世に生きて本読み草も引く
久本にい地(岡山県)
- 64 母の日や生まぬ同志と猫を抱く
小山羊子(新潟県)



俳句



- 65 万緑に隠したものが気に掛かる 野田明夢(新潟県)
- 66 「情報誌」愛はお金で買えませんか 安木沢修風(新潟県)
- 67 原発のコスト数えた無限大 森 恒雄(愛知県)
- 68 くだらない事を真面目に考える 丸山芳夫(東京都)
- 69 何もかも押し流してや除夜の鐘 湯浅暉子(石川県)
- 70 旅に得し懐紙に京の桜餅 吉里ひとみ(東京都)
- 71 バラの葉の雨滴に揺る、一日かな 林 克(福島県)
- 72 余生なほなすこと多し杜鵑花かな 内河邦久(東京都)
- 73 望郷はキャベツの匂ふ嬌恋村 山崎吉晴(群馬県)
- 74 迎へ梅雨ころの鬘を伸ばさばや 大谷 茂(埼玉県)
- 75 春一番妻の髪までかきまわし 松涛千鶴子(東京都)
- 76 絵に誘われつい手を出せり種袋 檜山とり子(東京都)
- 77 謂れ無き飛言や野火の猛りたる 川口 襄(埼玉県)
- 78 額寄せて線香花火浴衣子等 五十嵐睦博(新潟県)
- 79 春風や外ほりわたる風の皺 中嶋清子(佐賀県)
- 80 余生にも反抗期あり更衣 野木宗信(奈良県)
- 81 麦秋の高速道路いそぐまい 油谷博子(兵庫県)
- 82 田水張り一梅毎に秋田富士 土谷敏雄(秋田県)
- 83 螢火や買ひてそのまま夫婦箸 堅田秀子(東京都)
- 84 縄文のビーナス土の暖かさ 阿部 至(埼玉県)
- 85 髭を剃る父の鼻唄風薫る 長峰正晴(千葉県)
- 86 花閉じて夜は眠るや福寿草 田中美智子(埼玉県)
- 87 春惜しむ水琴窟に耳寄せて 高崎登喜子(東京都)
- 88 吟行や川辺彩る初桜 関原幸子(東京都)
- 89 新幹線こそつて光る螢鳥賊 野村牟人(東京都)
- 90 手にとるや五感よろこぶ桜餅 佐野和彦(静岡県)
- 91 鯉撥ねてしだれ桜の影乱す 三ツ木宗一(東京都)
- 92 鍋の蓋滝の真中に懸かりをり 緑川禎男(埼玉県)
- 93 黙深き記紀の山々つちふれる 澤 雅子(大阪府)
- 94 残雪や代掻き模様白馬岳 西條公雄(埼玉県)
- 95 吾子の手を離れし綿も紺碧の空 若月理依子(新潟県)
- 96 村役場後に大小八重桜 津田忠彦(岡山県)
- 97 すいれんの泥に埋れて芽吹き時 星 一子(神奈川県)
- 98 馬弓の的騎射せり真つ二つ 加用章勝(千葉県)
- 99 辛夷咲く道草するやランドセル 近藤薫也(千葉県)
- 100 弥彦山より暮れゆく佐渡や鳥帰る 古谷 力(東京都)
- 101 台所の出窓わびすけよく似合う 岩崎政弘(岡山県)
- 102 開き戸をピアノソナタや桃の花 城山憲三(愛知県)
- 103 ランチメニュー旬の惣菜豆御飯 居原田連星(大阪府)
- 104 妻恋し寝てもさめても早春賦 森 俊彦(神奈川県)
- 105 日の本の誇りは富士と桜かな 羽根田明(神奈川県)
- 106 寒卵さわぐネズミが入つてる 白戸麻奈(東京都)
- 107 儂きは雨情の歌のシャボン玉 山本勝美(滋賀県)
- 108 母と兎の雨中の遍路見送りし 炭崎 博(滋賀県)
- 109 雨桜おほむね他の音の街 安部 哲(新潟県)
- 110 葱坊主方程式は解けぬまま 湯浅芳郎(岡山県)
- 111 今もなほ見守り在す大櫓 菅原茂子(宮城県)
- 112 席ゆづる若者ありて老すゝし 浅海和代(東京都)
- 113 まさをなる空に新樹の息吹かな 塚田寿子(埼玉県)
- 114 と金には成れぬ人生冷奴 阿部徳夫(宮城県)
- 115 はらからの囲む卓袱台昭和の日 寺内 佶(埼玉県)
- 116 長雨に桜の花も終りけり 木下 精(大阪府)
- 117 そよ風が春の香りを伝えたり 河合ヤスエ(大阪府)
- 118 ふらこや背中に父の手の記憶 一瀬正子(埼玉県)
- 119 ひとたびは落花吸ひ込む池の鯉 三津木俊幸(千葉県)
- 120 雨あがり歩きへんろや花へんろ 佐伯セツ子(香川県)
- 121 帰国すやまず蕎麦する夜半の春 山本直子(大阪府)
- 122 山裾に伸びゆく団地若葉風 田中昶(鳥取県)
- 123 祝杯に米寿の春を惜しみけり 堀木和子(大阪府)
- 124 東京のさくらはどつと疲れけり 小島岳青(新潟県)
- 125 海棠の紅あかあかと化粧する 水落重式(新潟県)
- 126 高線量の湿地に生きるふきのとう 佐藤正子(福島県)
- 127 投げ入れの籠にザワザワ青麦穂 杉原明子(静岡県)
- 128 朝に見てひるも桜見夜桜見 河野静子(埼玉県)
- 129 娘の腕を借りる散歩や花すみれ 吉村充治(埼玉県)
- 130 抽斗のちちの赤紙遠蛙 浅野信廣(宮城県)
- 131 うぐひすや山が聞き耳立ててをり 片山茂子(埼玉県)
- 132 種蒔くや片手拌みの筑波山 井上静夫(栃木県)
- 133 耕耘機水陽炎をこぼしゆく 小澤円梨(静岡県)
- 134 梅雨空や彼と私の涙雨 山本理香(大阪府)
- 135 山葵田を濁世いとはず水流る 天野輝子(東京都)
- 136 知らぬ子に挨拶さるる春満月 岡野智恵子(埼玉県)
- 137 残雪の仙丈ヶ岳を描いてみる 鈴木みえ(長野県)
- 138 菜の花や草木の内輝やけり 須澤重雄(長野県)
- 139 水仙を台座に咲かせブロッケン 大橋恒次(新潟県)

- 140 田の神の息づかいかも初時雨
渡邊 清(宮城県)
- 141 花の夜夫と語らう絵蠟燭
大塚徳子(埼玉県)
- 142 初燕川面かすめて橋くぐる
津布久信雄(東京都)
- 143 賜びし友逝き満開の芝桜
宮宅芳子(岡山県)
- 144 コップ酒桜一ひら受けにけり
神 一男(静岡県)
- 145 新社員キー打つ指の華やげり
黒田康子(大阪府)
- 146 藤ノ木の馬具を称ふか揚雲雀
西川孝子(奈良県)
- 147 花にこと寄せて適ひし逢瀬かな
有坂馨園(福島県)
- 148 定位置の心地の良くて桜餅
川嶋法子(東京都)
- 149 門くぐり旅の終りに花明り
井田由利子(宮城県)
- 150 啓蟄や蚯蚓の紅の反射光
渡邊碧海(静岡県)
- 151 囀りの朝から愉し厨窓
中田文子(大阪府)
- 152 花辛夷蒼天に浮く白さかな
浦橋渴雪(兵庫県)
- 153 身八つ口おみなを抱きし花の影
堀井酔人(茨城県)
- 154 実朝の夢のあと追ふ落花かな
上村元義(神奈川県)
- 155 タンポポのアスファルト割る力かな
松前邦広(千葉県)
- 156 空笑ひ輝き返す若葉かな
千代田俳徒(東京都)
- 157 耳寄りな話を聞いて桜餅
青木ケン子(埼玉県)
- 158 かりがねも過客や別れ告げてをり
堀田寿美子(北海道)
- 159 白亜紀の自浄力もち蜥蜴出づ
菅井文男(新潟県)
- 160 ここからは進入禁止花吹雪
池田 岬(埼玉県)
- 161 あと五年桜を見たし八十路成る
黒岩正子(埼玉県)
- 162 透く傘にさみどり映す木の芽雨
岡村君枝(茨城県)
- 163 休む鶴も富士をむいてる梅日和
岩田 信(神奈川県)
- 164 たんぽぽや皺はをこの勲章ぞ
鈴木岑夫(千葉県)
- 165 堅琴と歌ふ乙女や春の虹
竹本美美子(新潟県)
- 166 足もとを照らして歩く螢狩
駒場京子(神奈川県)
- 167 いぬふぐり廃校の遊具離し立て
菅原キイ子(宮城県)
- 168 さりげなくそこはかとなく春惜む
福岡 悟(東京都)
- 169 眼下に黒い河お花畑で跳ねるボク
白松いちろう(千葉県)
- 170 春めきて家の内外気がかりに
杉村美保子(岩手県)
- 171 惜春や庭に咲くもの咲き尽し
大阿久雅子(埼玉県)
- 172 残る花文箱の櫛と爪切りと
石井美智子(埼玉県)
- 173 葉桜や女に年齢を問ふは野暮
小林七重(新潟県)
- 174 来客を送りだしたり朧月
重原 昇(新潟県)
- 175 葉桜や四季ある星のいとほしき
坪田勝秀(鹿児島県)
- 176 古希に漕ぎ出すダンスに絵だの芽吹
時 有田裕子(北海道)
- 177 歌舞伎町にゴジラ出現初燕
福田和子(東京都)
- 178 三万六千日生きのび花見かな
藤井春三(埼玉県)
- 179 ひたすらに君待ちし日よ桜待つ
中山日出子(大阪府)
- 180 だからこそ謙虚に生きたしすみれ草
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 181 風もなき日のほとり逝く落椿
清まさじ(静岡県)
- 182 「父の日」の母を大きく家族の絵
中村康浩(福岡県)
- 183 暮れ滞む湖畔の桜浮きいでし
磯部 力(新潟県)
- 184 命日や晴雨とはず春愁ひ
田野倉訓郎(東京都)
- 185 三百の詩歌に惑う三尺寝
齊藤安弘(神奈川県)
- 186 バン生地にシヨパン聴かす朧の夜
今井勝子(新潟県)
- 187 風光る空の極みに鳶の笛
高杉杜詩花(北海道)
- 188 木蓮に鐘ひびくなり百済寺
杉本敬治(愛知県)
- 189 酔藜草の小さき花をいとおしむ
道給一恵(埼玉県)
- 190 春の旅ベッドの中で聞く瀬音
田野井一夫(栃木県)
- 191 鶯の声いやされし墓参り
長谷部喜代子(大阪府)
- 192 老いてなほ春眠と云う若さ有り
鏡たか子(山形県)
- 193 来し方に誇るものなし雲の峰
鮫島茂利(兵庫県)
- 194 羅や産土神に宮参り
有田俊一(埼玉県)
- 195 彼岸の入りあれやこれやとさがしも
の 小林春雪(新潟県)
- 196 老梅の庭半分を占めにけり
古川正栄(千葉県)
- 197 濠割りの水の流れに花筏
田中恵美子(山形県)
- 198 逆あがり入道雲もぼくのした
北岡 晃(兵庫県)
- 199 あをき香の総身に染むる新茶かな
増本和子(大阪府)
- 200 おさな子や雪やこんこん花吹雪
沖 惇子(大阪府)
- 201 潦収まりきらず花筏
井上氣海(広島県)
- 202 狛犬も深呼吸する若葉風
高垣勝代(大阪府)
- 203 節句には邪気払いに柏餅
五味田幸夫(神奈川県)
- 204 春愁や薄く大きな昼の月
松嶋光秋(東京都)
- 205 菖蒲湯やまげず嫌ひが稚魚となり
椋本望生(大阪府)
- 206 道に出て父と遊ぶ子風薫る
中澤寿美(神奈川県)
- 207 白服の少女まぶしき衣更
村田吉雄(東京都)
- 208 春の草帽子をそつと置いてみる
服部八重子(東京都)
- 209 銅鏡の出土全山花ふぶき
浜田はるみ(埼玉県)
- 210 ピンク去り緑の絨毯初夏の道
針生 清(千葉県)
- 211 鳴き砂の小瓶の土産夏果つる
岡村イト子(東京都)
- 212 池の面を蝶渡り来て消えにけり
梶 鴻風(北海道)
- 213 花ふぶき少女になりし吾がいて
大内泰子(東京都)
- 214 朝練の子ら駆け抜けけり新樹光
村山徳英(埼玉県)
- 215 一歩づつ復興祈るクロッカス
邑橋節夫(兵庫県)



- 216 桜呼ぶ声が沖から地中から
鈴木蝶次(宮城県)
- 217 母の日の遺影に香を燻らせる
増田公代(東京都)
- 218 故郷の米や小豆や草の餅
宮本幸子(埼玉県)
- 219 小波も夏を呼びこむ調べの音
中村和弘(愛知県)
- 220 土佐日向水木の違ひ咲いて知る
青木凉子(埼玉県)
- 221 菜の花やゆつくりと時間は流れをり
中川義彦(新潟県)
- 222 右脳左脳海馬のゆるむ万愚節
大窪美代子(大阪府)
- 223 墨汁の筆のリズムや四温晴
中野勝子(鹿児島県)
- 224 のどけしやおしゃべり上手な電波猫
倉田淑子(東京都)
- 225 初花や加齢は華麗と読み替へよ
岩村 昇(神奈川県)
- 226 蔵王嶺の残雪呑むか鯉のぼり
木村 舳(山形県)
- 227 八十八夜地の修羅を抱へつ
中岡昌太(神奈川県)
- 228 ニラの花よけて足場の組まれおり
山崎鶴恵(鹿児島県)
- 229 葉桜や調律終へしピアノ弾く
高瀬秀嘉(静岡県)
- 230 種蒔やふつふつと夢の沸き
石川郁子(埼玉県)
- 231 親竹に成る竹の子を残しけり
永井俊樹(兵庫県)
- 232 夜の東寺しだれ桜の浮き上がり
金子範子(高知県)
- 233 托鉢の僧や頭上につばめの巢
佐藤 信(神奈川県)
- 234 満開の桜ささなみ鳩の湖
勝田久美(大阪府)

4月号の 心に残った作品

「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんのお返答をお寄せ頂きありがとうございます。その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。

◎川柳部門大賞

4こだけの話と言えは耳が寄り

石原 岳(群馬県)



内緒話をうまく表現している近藤富夫(東京都)の一言が百パーセント

伝わる 西條公雄(埼玉県)・女性達はこのだけの話に興味しんしん「耳が寄り」がいい 大久保アヤ子(東京都)・人間だもの。いけないとはわかつていながらどどん引き寄せられる 目黒豊光(福島県)

【自句自解】

人は自分の知らないもの、珍しいものに強く気持ちがひかれるものです。誰でも経験があると思いますが、例えば会社や官庁での人事異動や昇任など発令前から噂がたつものですね。誰々は今度課長になるらしいとか、またそういう噂を得意気に話す人がいる。

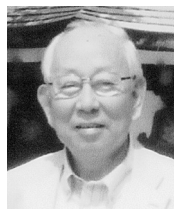
みんな好奇心な耳をもち、好奇心な目をもっているものなんです。そんなことが川柳の題材にもなったわけです。

◎俳句部門大賞

102 たんぼばや外野はもつと声を出せ

長谷川正(東京都)

今は昔の思い出 炭崎 博(滋賀県)
少年野球、がんばる子供をたんぼばが見守っています 湯浅芳郎(岡山県)



長谷川正様

・そうか。外野はもつと声を出さねばならぬのだ。マツリゴトというやつは外

野こそ大切なのだと 小島岳青(新潟県)・子供が少年野球でしようか、情景が目浮かびます。たんぼばだからよいのだと思います。中山日出子(大阪府)・うまく季語とあっている 高垣勝代(大阪府)・広々とした球場・熱心なコーチ・野球の練習風景がうかびました 石川郁子(埼玉県)

【自句自解】

わが国経済が右肩上がりの昭和の時代、企業も社内コミュニケーションづくりの名のもとに、やれ野球大会だソフトボール大会だと福利厚生費をふんだんに使い社員を大事にしました。眼鏡を掛けた、一見事務職に見える、ひ弱なタイプの社員が外野を所在無く守っている。監督役の社員から「もつと声を出せ」と発破を掛けられている。折角の休みに何でこんな目にあうのだろう。外野一面に咲いているたんぼばの花たちはそんな囁きを聞いていたことだろう。

◎短歌部門大賞

今回は票がわれたため該当者なし

《川柳》

9 人間のモラルを捨ててゆく戦争

岡本邦子(福岡県)

国際遺産の第九条が風前の灯火です。ね!! 関本 守(新潟県)・戦争にかかわると、人間、心をコントロールすることが難しくなり、正常がいつのまにか異常となるように思います(恐ろしいです) 阿部澄江(宮城県) 他

《俳句》

125 妻入院雪降りやまずふりやまぬ

浅野信廣(宮城県)

・落ちつかない心象風景 内河邦久(東京都)・妻の入院。その淋しさと不安感が「降りやまずふりやまぬ」という言葉の連鎖によく表されている。「降」と「ふ」漢字と仮名の使いわけもよい 萬濃その子(神奈川県) 他

《短歌》

215 うつくしまと美称ほこれる福島にも
どしくだされほんとうの空

黒澤正行(福島県)

・福島空の美をとりもどしたい作者の気持ちがよくわかる 山田良男(埼玉県)・被災地福島の叫びと祈り。それでも原発再稼働とは 橋本世紀男(東京都)・原発事故から四年を迎えまだ終息しない現状、放射線の放出が続き人間は勿論生物の汚染が心配です 菅井文男(新潟県)・福島を詠み続ける執念と鎮魂への祈りをこめて 齊藤安弘(神奈川県)

《他にも》

35 宝物本人以外すべてゴミ

三宅得三(新潟県)

63 我も唄ふ「一年生になったら」

阿部 至(埼玉県)

67 老木になほ咲く力梅の花

堅田秀子(東京都)

77 子にはない孫抱く気楽山笑ふ

長峰正晴(千葉県)

198 空めくつてもめくつても雪みちのく

は 鈴木蝶次(宮城県)

216 春の水すくわんとして水際の吾子はま

ることひかりの器 北岡 晃(兵庫県)

※今後ふるってご投稿をお願いいたします!

●お客様の「リレーエッセイ」

母への詫び状

湯浅美登利

(東京都・板橋区)

母の魂が来世へと旅立つてから、一年以上の月日が流れてしまいました。私にとつてはかけがえのない存在でしたので数ヶ月は抜け殻状態となり、とはいえ当然やるべき事や就職活動もしていましたが、終日、家にいて誰ともしゃべらないと母の事ばかり思い出し、泣いてばかりでした。淋しい、会いたいという想いから、当時はよく空を見上げて、母を探しては涙をぬぐっていた私です。家族に対する愛情が深かった母は生前、兄と私にそれぞれ三通ずつ手紙と遺書も残していたのですが、私はそういう母に詫び状を書かずにいられませんでした。ひたすら、ごめんねと母に謝り、自分の無力と介護疲れから母に対してひどい言葉を浴びせてしまった、いたらかなさを詫びていました。

その後、ある霊能者に「お母さんは徳を積んだので、成仏して観音様に呼ばれたけど、娘の守護霊をしたいと願い出たので、行ったり来たりしてあなたの中にいるわよ」と言われ、私は本当に嬉しくて、萎えていた気持ちも救われたのです。今でも母と二人で暮らしている感覚ですが、ある晩、夢の中に母が出てきました。体調が悪くなってきた母が「死ぬ前にもう一度、温泉に行きたい」と言っていたのですが、そのささやかな願いさえ叶えてあげられず、私は今でも悔いています。夢の中で途中から母をおぶった私は、川のように細長い温泉の前に立っていました(その温泉と想っている場所は以前にも夢で見た光景です)。やっと母を温泉に入れてあげられると思ったら、はかなく夢はそこで終わってしまいました。この夢の事を又、霊能者に話したら「夢はそこで終わったかもしれないけど、その後、お母さんと手に手をとって、あの世の温泉と一緒に入ったんじゃないかしら」

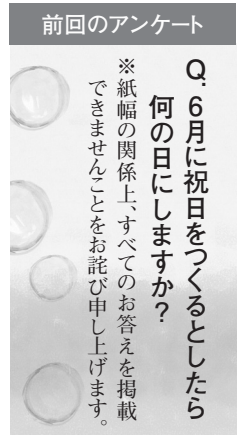
と言うではありませんか。それまでの悲しみもその言葉で癒された思いでした。私の心も温泉につかったように温まったのです。

私が今、気持ちの張り合いを持って元氣になれたのは、周りの人達の支えももちろんありましたが、まさに母の導きの数々で、俳句を作る楽しみに出会えた事が大きいです。生前、足が弱ってきた母に付き添い、松嶋光秋先生主宰の「赤鳥会」の句会に行っていました。その頃の私は自分が作る事は全く考えていませんでした。母が亡くなり、その報告がてら句会に行つたのがきっかけで、不思議と何句か作れるようになったのです。母も若い頃は和歌を嗜んでいましたが、六十才で俳句を始めたという事ですから、私もほぼ近い年令で出会えたわけです。晩年、母は句集を作りたいと言っていたのですが、その意志を受け継ぎ私も母の句と合わせて親子の句集を作りたいという夢が持てました。

母が詠んだ句に「過ぎ去りし起伏の日々や遠花火」というものがありますが、まさに波瀾万丈の生涯を生き抜いた強い母でした。父が亡くなってからは父親代わりにもなり、お店を経営しながら当時、学生だった兄と私を育ててくれました。長唄など趣味も多く、気持ちも若かった母は、私と一緒にサッカーを熱く応援したり、お茶目で楽しい一面もありました。そんな母の最期の入院はかわいそうなくらい辛いものでしたが、私に看取られて眠りながら静かに息を引き取った最期は、優しかった母にふさわしい姿だと思いました。一卵性親子と言われるくらい(前世では双子だった時もあるとか!?)仲が良かった母は、これからもずっと私のそばにいて見守ってくれると思いますし、あの世で再会したら、一緒にゆつくり温泉につきあいながら、いろいろ語り合いたいと思います。



A Q U E S T I O N N A I R E



前回のアンケート

Q. 6月に祝日をつくるとしたら何の日になりますか?
※紙幅の関係上、すべてのお答えを掲載できません。ことをお詫び申し上げます。

★時

・「六月十日」「時の記念日」とする
山崎吉晴(群馬県)

・時の大切さを見直す日
長峰正晴(千葉県)

・時間を守る再確認
山本勝美(滋賀県)

・時の日がふさわしい
高杉杜詩花(北海道)

・どうしてないのでしょうか。「時は金なり」なのに
梶 鴻風(北海道)

・人間は「時」をいつも念頭に置き、切磋琢磨すべき
萬濃その子(神奈川県)

・時間を大切に尊重する意識を高める意味でも
和崎治人(山口県)

★水

・水資源を大切にすることを育てる日
桑原謙一(群馬県)

・人間にとって最も大切なものから
三津木俊幸(千葉県)

・古くは六月のことを清音といひ「水の月」で田に水を注ぎ入れる月の意で「水の日」
松前邦広(千葉県)

・有難さと未来を考える日
山崎鶴恵(鹿児島県)

・水の大切さと恐さを感じる日
井上静夫(栃木県)

★父

・水を大切にするとともに災害にも気をつける意味
岩田 信(神奈川県)

・「父の日」「母の日」を祝日にする
藤井春三(埼玉県)

・現在は六月の第三日曜日が父の日になつていますがウィークデーに父の日の祝日を設定する。これ絶対!
松田重信(埼玉県)

・お父さんをもう少し大事にする世の中にしたいの
増田公代(東京都)

・意外と父の存在が軽く見られがちで懸命に働く父親に敬意を表すべき
木村 舩(山形県)

・六月第三日曜日の翌日を父の日に
石原 岳(群馬県)

・六月二十一日「父の日」又は「父母の日」
上村元義(神奈川県)

★結婚

・June brideに因み「花嫁の日」
古谷 力(東京都)

・新しき人生の日
野村牟人(東京都)

・婚礼の日
加用章勝(千葉県)

・結婚記念日(現実に六月八日でした)
内河邦久(東京都)

・結納の日
福地義雄(沖縄県)

・皇太子の成婚の日
油谷博子(兵庫県)

★梅雨

・梅雨の中休み
安木沢修風(新潟県)

・日本は農業国。大切な梅雨の日々。農家の人々を楽しく休ませたい
近藤薫也(千葉県)

・梅雨のゆううつな気持ちを晴らす為の日
山本理香(大阪府)

・梅雨の晴れ間の日
檜山とり子(東京都)

★夏至

・6月21日 昼がもっとも長く夜が最も短い。
浦橋湯雪(兵庫県)

・昼最長
有坂馨園(福島県)

・夏至の日(冬至の日も)
福岡 悟(東京都)

・生命の源を司る恵みの太陽を祝う「夏至の日」
有島和子(東京都)

・シールボルトのこと等言わずとも日本の誇れる花でしょう
三ツ木宗一(東京都)

・六月半ば頃「紫陽花の日」
天野輝子(東京都)

・雨も楽しくなりそう
奥田音野(香川県)

・梅雨を楽しむ日
浜田はるみ(埼玉県)



★雨

・雨に感謝
橋本世紀男(東京都)

・大地をうるおし人の心をうるおす雨。一日、ゆっくり雨音を聞く日
藤橋一葉(新潟県)

・自然の恵み。長靴、傘、レインコート。おしゃれが楽しくなります
大鳥居牧子(東京都)

・空の洗濯日(雨はお空の洗濯屋さんといふことばもありますから)
坪田勝秀(鹿児島県)

★緑

・深緑の日
鈴木義雄(福島県)

・青葉の日
千代田俳徒(東京都)

・六月は新緑が美しく夏への橋わたしで初旬6月6日がいよいよですね
須澤重雄(長野県)

・六月十九日「万緑の日」
土谷敏雄(秋田県)

★エコ

・節電、節エネルギーの意義を意識するため。民官政の意識向上をはかり原発を使わない(廃止する)日を
石尾曠師朗(東京都)

・「水資源の日」限りある資源。大切にしたい
堀木和子(大阪府)

・環境の日
小石澤英夫(東京都)

・節電の日
沖 惇子(大阪府)

・本土復帰したのが六月だから
関原幸子(東京都)

・沖縄忌(六月二十三日)
岡野智恵子(埼玉県)

・六月二十三日の沖縄の日。日本で唯一地上の激戦地となったこの日を不戦の誓いを新たに認識する日とした
大阿久雅子(埼玉県)

★山

・八月に「山の日」ができましたがこれを六月にして休日にしてほしかった
若月理依子(新潟県)

・山の日(山開き、登山者の増加と事故防止、七月の海の日との対比)
永井俊樹(兵庫県)

★健康

・健康を考える日
野木宗信(奈良県)

A Q U E S T I O N N A I R E

・健康管理の日 西條公雄(埼玉県)

★家族

・家庭を守る守護神ジヌーに合わせ、日頃疎遠の家族が実家に集う日したい
高崎登喜子(東京都)

・家族の日(家庭の日)
山田楽山(埼玉県)

・先祖を偲ぶ日 今井忠一(東京都)

★川

・七月に「海の日」があるので、六月は梅雨で「川の日」としたい
赤塚五行(新潟県)

★植物

・あした葉の日(6/30)新しい葉が生長してから古い葉が譲って落ちるといっても日本人的な葉、一年前半のくざりに 岩崎令子(大阪府)

・「無花果の日」としたい。静岡を離れた時、実家にあつたいちじくの木を記念に挿木したものが大きく大きく成長し毎年何百と実る。お好きな方にお配りするのが一番楽しい
仁藤ひろじ(埼玉県)

★平和

・英霊を尊び沖縄戦終結の平和を考える日 六月二十三日
土屋喜雄(山梨県)

・平和の日 松尾正一(岩手県)

★防災

・「防災の日」半年をすごしみなで一度防災を振り返り残り半年を安心安全にすごす。「茅の輪」
寺内 侖(埼玉県)

・六月は水害など自然災害が多いので「防災の日」を十日か十五日に
大橋恒次(新潟県)

★本

・本(読書)の日 岡村君枝(茨城県)

・晴耕雨読にちなみ読書の日
高松秋良(群馬県)

★農業

・田植えの祭 古川正栄(千葉県)

・田植えの日 湯浅芳郎(岡山県)

・六月は水田の風景が最も美しい月
今井勝子(新潟県)

・瑞穂の国での田植の季
中岡昌太(神奈川県)

・農業復興の日 神 一男(静岡県)

★その他

・「食物の日」豊食で贅沢な時代です。せめて感謝の気持ちで頂きましょう
奥那於子(大阪府)

・介護の日。梅雨だし病人にとつては大変な日だと思います
阿部澄江(宮城県)

・「なかまの日」人はどんなに苦しくとも親身になって支えられる友人がいれば強く生きられる
邑橋節夫(兵庫県)

・「喜怒哀楽」の日(梅雨どきに創作意欲がより一層増すものと存じます(が...))
阿部徳夫(宮城県)

・「真珠を愛しむ月」なんてね!!
池田 岬(埼玉県)

・「奉仕の日」全国で一斉に二人一つだけでも奉仕できれば優しい心が持てそうな気がする。
音喜多千津子(埼玉県)

・若人の日 岩村 昇(神奈川県)
6/2日横浜開港記念日
大内泰子(東京都)

・六月三十日「茅の輪くぐり」心身の汚れをのぞく行事
田中美智子(埼玉県)

・愛の日 堀井醉人(茨城県)

・「中期の日」(前半反省し)後半へスタートの日。後期高齢者をもじって
南喜美子(千葉県)

・宇宙の日 福田和子(東京都)

・俺と家族の日 重原 昇(新潟県)

・薫風の日 炭崎 博(滋賀県)
古来より神社関係では六月の末日にお祓いの行事をします。「夏越の日」を一般化して身を清める日はどうでしょう
中村和弘(愛知県)

・己(自分)の日
吉里ひとみ(東京都)

・国民主権の日(為政者の猛省を促す日)
長野光康(神奈川県)

・駄句をイタワる日
関本 守(新潟県)

・「映画の日」雨降りが多いので室内で行動できる
石川郁子(埼玉県)

・不惑の日(四十而不惑のことばから連想して)欲にかられる日本人の反省する日
齊藤安弘(神奈川県)

・六月と書いてみんづきの日とは
服部八重子(東京都)

・六月二十三日オリンピックデー
田中豊恵(新潟県)

・六月一日異常気象日(地球に感謝しつつ温暖化警鐘日)六月十日(時の記念日としているが祝日とし、約束を守る)。一刻一刻を大切に生きる。
清水英雄(東京都)

・六月無礼から無礼の日
奈倉楽甫(愛知県)

・県民の日、ある県は市町村の日
目黒豊光(福島県)

・六月三日「茅の輪くぐり」心身の汚れをのぞく行事
田中美智子(埼玉県)

・筍の日 六月六日に緑を食む日
五味田幸夫(神奈川県)

・六月四日を虫歯ゼロの日と、八十才で自分の歯が二十本ある人の表彰をするとか
金子範子(高知県)

・入梅の時期でもあるので「空の日」を作りた
水落重式(新潟県)

・華道の日 高橋登志子(新潟県)

・ビールの日 有田俊一(埼玉県)

・「福祉の日」
田中昶(鳥取県)

・ほたるの日。日本古来の蛍をアチャコで再生させたい
白松いちろう(千葉県)

・「ボランティアの日」二十年前のボランティア(元年)を礎とし、日本の近未来を見通し、是非実現したい
中村康浩(福岡県)

●俳句・川柳募集!!
新コーナーがはじまります。

フォトイック(写真で一句)



(写真提供:中川 肇さん)

次号より「投稿作品」欄で掲載開始の予定です。

右の写真から、自由にイメージし17文字(俳句か川柳で表現してください。一枚の写真から想起される世界は無量大です。応募はアンケートハガキ投稿欄にて。ユニークなイック(二句)をお待ちしております!

4月号へお寄せいただいたお声、ほんの一部ですがご紹介します！
皆様の温かい感想、親身なアドバイスで情報誌「喜怒哀楽」がつくられています。今号へのお声も、お待ちしております。

- ・タイトル喜怒哀楽の色艶が良い。内容も刷新され次号が楽しみです。
- ・「温古知新 菜根譚 5」今回の内容も日常生活に於いて大切なものを忘れてはいませんか？という反省の事項ですね。
- ・菜根譚はもとより「笑顔礼讃西東」は句を作るにはとても貴重なページです。毎回総じて学びの冊紙と感謝です。
- ・「信天翁句会」一言一言がとてもよい勉強をさせて頂きました。
 - ・「吟雪」の藤井さんの記事はとても為になり早くから読みたかったです。ありがとう。
 - ・中岡昌太様のインタビュー記事、お話の中に温もりを感じました。「老いという言葉は使わず常に新鮮さを保ちたい」…勉強になりました。
 - ・入学式の思い出を読み年少の頃を思い出した。
 - ・最近の「喜怒哀楽」誌に掲載される作品が300に満たないのは応募数が少ないからですか。
 - ・川柳が少ない気がする。俳句が多い気がする。
- ・毎号楽しく読んでいます。老後の楽しみです。特に投稿者の出身県が楽しみです。
- ・「泉鏡花と神楽坂」を興味深く読みました。すゝとの愛を貫き通した鏡花の芯の強さに心打たれます。
- ・「にいがた文化の記憶館便り」偉大な先輩の掘り起こしはこれからの我々の生き方に大切なことと実感します。
 - ・「食楽句楽のすすめ」岩田氏の軽妙なエッセイ美味でした。(笑)
 - ・写真やカットが美しく読んでいて楽しい。読むことのすきな私も何か書いてみようかなと思わせてくれる喜怒哀楽です。
- ・皆さま頑張ってますね。良い刺激になります。

新潟ぶらり

★吉田東伍記念博物館

知られざる偉人、という言葉がびつたりの吉田東伍。新潟県阿賀野市保田(旧安田町)の生家となり記念博物館があり、彼の一生を、その著書や原稿、遺品から知ることができる。

会津出羽につながる街道、阿賀野川の船着場をもつ安田は要衝の地。江戸時代には句集が次々に刊行され、俳諧を通し全国の人々との交流があったという。多彩な文化や知識が集まるこの地に、東伍が生まれた。いまから約一三〇年前のことである。

日本歴史地理学の先駆者といわれる彼の、最も注目すべき仕事は『大日本地名辞書』の編纂である。日本初のこの地名辞書、全国四万一千か所の地名が載っており、なんと現在でも出版・利用されている(富山房)。そしてこの辞書を、東伍はひとりで作った。

三一歳からスタートし、出来上がったのは四三歳のとき。十三年間、一日も休まずに書いた一万二千万字、五千ページ超となる原稿は、積み上げると四メートル半にもなる。睡眠や食事を削る生活で(時間を惜しんで歯も磨かなかったという)、原稿が出来上がったときには運動不足と栄養失調になっていた。『大日本地名辞書』につづいて角川が『角川日本地名大辞典』を作っているが、多くのスタッフ、そしてコピーという利器をもってしても十二年という歳



2階には、「ひつじ草」(琵琶湖周航の歌)の作曲をした吉田千秋の常設展がある。千秋は、東伍の次男。

住/新潟県阿賀野市保田1725-1 料金/300円
9時30分~17時 月曜日休(祝日の場合翌日)

月がかかった。東伍は、辞書作りに卓越した記憶力で挑んだ。「図書館に一日行けば、十〜十五日分書けるので自宅に資料は要らない」と言つて出版社を驚かせたというエピソードがある(これが、出版社が採算を度外視して取り組むきっかけとなった)。裏付けともいえるのが『大日本地名辞書』の三分の一を、稀書が占めていること。わずかな閲覧のチャンスに、自身の記憶力を活かしてまとめたのだ。

そんな彼に学歴を訪ねると「図書館卒だ」と答えたという。自学の人である。多数の著書・論文を発表し、生活上のための学問に取り組むが、五三歳という若さで亡くなる。博物館には、未完の仕事も展示されていた。

入口に、東伍の次の言葉が刻まれている。「郷土の地理、郷土の歴史というものは、とりもなおさず郷土の未来に向かつてその応用をまつものである」——名が知られることはなくとも、その功績は私たちの知らぬ間に、私たちのなかに息づいている。(菅真理子)

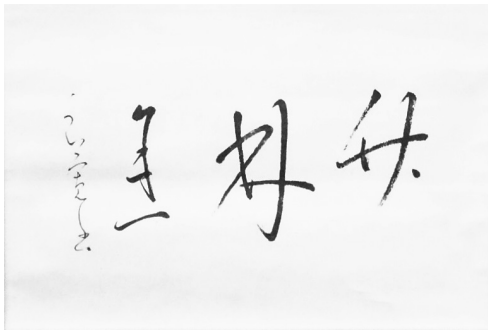
新潟日報メディアシップ 5階
〒950-0088 新潟市中央区万代3-1-1
TEL:025-250-7171 FAX:025-250-7040

にいがた
文化の記憶館
便り(2)

「良寛の書と敬慕者たち」

秋岡 啓子

新潟を代表する文人といえば、江戸時代の禅僧・良寛(1758～1831年)の名前が一番に挙げられます。現在、良寛さまといえば、「この里に 手毬つきつ 子供らと 遊ぶ春日は 暮れずともよし」の歌にあるような、無邪気に子どもらと遊ぶ優しいお坊さんといったイメージが一般的かもしれません。またあわせて、優れた詩歌や、独特の書風で多くの人を魅了し続けています。



▲良寛書「竹林舎」個人蔵

良寛は出雲崎町の名主の跡取りとして生まれました。しかし18歳で出家し、家業は弟に託すこととなります。曹洞宗の僧として諸国で修行した後、40歳頃になって故郷の越後に戻り、燕市国上山くみやまに庵を結んで暮らしました。晩年は島崎(現長岡市)の木村家に迎えられて没しましたが、生涯自分の寺を持たず、基本的には弟子も取らなかったこと

から、当時はむしろ変わったお坊さんとして敬愛されていたようです。

新潟市出身の東洋美術史学者で歌人の會津八一(1881～1956年)は青年時代、根岸庵の正岡子規を訪ねて、「我が郷の良寛禅師を知りたまふや」とただし、村山半牧編の『僧良寛歌集』を贈ったと記しています。この時点で、子規のような文学者でも良寛のことを知らなかったということです。良寛の名が全国に広く知られたのはこの頃からで、伊藤左千夫、斎藤茂吉らは、万葉集の響きを残す良寛の歌を特に高く評価しました。

良寛の敬慕者として著名なのが、夏目漱石です。漱石は、初めて良寛の遺墨展を訪れた際、「あれこそ頭が下がる」と眩きました。後に至った「則天去私」の境地は、良寛の生き方に通ずるといわれています。何とかして良寛の書が手に入らないかと探し求めた漱石は、いよいよ手に入った暁に自分の書を所望され、「悪筆で恥をさらす位はいくらでも辛防しんぼう可仕候」といい、良寛書を手に入れた喜びを表しました。他にも良寛書を求める文人は多く、たとえばモダンズムの詩人・堀口大祐は、良寛書の屏風を愛蔵して詩にも残しました。

興味深いのは、このように良寛の書や詩を評価した文学者たちが、いずれも西洋文学を学んだ近代的視点を持っていたことです。ここに古めかしい中国風の文人とは異なる、西欧的ヒューマニズムの観点から成る新たな人間・良寛像が生まれました。特に『大愚良寛』を著した相馬御風(1883～1950年、糸魚川市)について、會津八一は、「多感多涙の人間良寛を刻み上げたのは彼の偉業であつた」と評価しています。



▲良寛

【企画展示情報】

「良寛の書と敬慕者たち」

- 6月6日(土)～7月26日(日)まで。
- 月曜休館(祝日の場合は翌日)。
6月20日(土)、7月25日(土)14時から解説会あり。
- お申込みは 電話 025-250-7171

今回からの新コーナー「食楽句楽のすすめ」の執筆者・岩田桂さんは、岐阜県生まれ、新潟市在住の元大手企業の企画マン。畑を耕し、俳句の主宰をつとめ「食楽句楽」を実践しつつ人生のセカンドステージを満喫されています。食と俳句とのコラボレーション、当意即妙のエッセイをご賞味ください。

ソーダ水のシアワセ

岩田 桂

ソーダ水を飲むたびに、今でもじーんと思いつく歌があります。「ツンツン節」です。手を腰に当てて、ツンツンと体を上下させて歌います。さあいきますよ。

ボクは真面目な高校生、ツンツン、胸に五つの金ぼたん、ツンツン
君はかわいい女学生、ツンツン、背なに二本の白い線、ツンツン
そもそも二人のなれそめは、ツンツン、小雨に煙る並木道、ツンツン
ボクはコーヒー君コア、何にも言わずにいつまでも、ツンツン
ボクが大学出る頃は、ツンツン、君はがっちり嫁支度、ツンツン
たつた六畳二間だが、ツンツン、明るい陽射しの新所帯、ツンツン
もしも女が生まれたら、ツンツン、きつと君に似てるだろ、ツンツン
もしも男が生まれたら、ツンツン、きつと貴方に似てるでしょ、ツンツン
今でこそ、このような純情な青春風景は少なくなっていますが、ボクらの時代は、この歌にすべての夢と希望が託されていました。青春であり小さな幸せの歌なのです。

ですから今でも口ずさむと、熱きものが胸にこみ上げてくるのです。団塊の世代が聞けば涙ぐむ「神田川」などとよく似ています。まるで寮歌を熱唱するかのようです。

そんな時代の初めてのデートは、街角の小さな喫茶店の隅っこが定番です。お互いに伏し目がちで、ハンカチを握る手は心なしか震えていました(本当です)。そんな時に活躍するのが、かのカラフルなグリーン色のソーダ水です。ストローでかき混ぜながら、ふわふわした気持ちを抑えるのに役に立ちます。一口すすつては、またストローでかき混ぜる。サクランボを指で移動させてみる。

ストローで混ぜてはまた、ソーダ水の上澄みをすすする。このきこちない繰り返して、切ない時間が静かに過ぎていきます。まさに「透明な無限の夢のソーダ水」風景です。



見つめ合ふ明日の色のソーダ水

じゃあこの場合、サイダーやかき氷、あん蜜やアイスクリームが登場してもいいじゃないかと、邪魔をする人がいます。もちろん、「それは個人の勝手でしょう」と言えばそれで議論は終りになります。

しかしやはり、この場合はソーダ水でなければなりません。あん蜜食べながら、爽やかな「明日の夢」を語れますか？この一線はどうしても譲れませんが、ソーダ水ほど、切なさ、はかなさ、希望や夢、哀しみを表わすメニューは他にはないからです。

ソーダ水の泡を見ていると、人生のはかなさや青春の刹那さが浮かんで消えていきます。という事は「ソーダ水はソーダ水にして、ソーダ水にあらざる」なのです。ソーダ水には心象としての、様々な人生が詰まっている。それくらいに大袈裟に考えると、ソーダ水の淡色の存在感が見えてきます。

浮かびくる泡の行方やソーダ水

だから「ソーダ水に於ける心理学的研究」が卒論テーマでなされても、何ら不思議じゃない。例えば次のようなメニューは考えられないか。

- 初恋のソーダ水(ピンク)
- お別れのソーダ水(ブルー)
- 求愛のソーダ水(真紅)
- 不倫のソーダ水(オレンジ)
- 淋しき王様のソーダ水(白)
- 告白のソーダ水(紫)

などの「色」泡」連携の心象的メニューです。これを「そうだ、そうだのソーダ水」といいます。ソーダ水の色を見ればお互いの心の内が透き通ってわかる訳です。なぬ、今日の君はブルーって、どうして…。

キミマロさんではないが、あれから四十年経ちました。そして最近、久しぶりにソーダ水を飲んでみました。グリーン色はそのままでした。ストローで氷を突くと、底から泡が立ち上り、それを楽しみなながらかの「ツンツン節」を口ずさんでみました。「ボカあく、ソーダ水さえあればシアワセなんだ」とまるで加山雄三さんのなはしやぎようです。

ボクは真面目なおじいちゃん、ツンツン、胸に五つの金ぼたん、ツンツンボクの心のポケットにはまだ、五つの金ぼたんソーダ水が入っていました。人生の「楽しい頃」の思い出がぎゅつと詰まっています。

眼鏡拭く楽しい頃のソーダ水

「月の匣」の5周年全国俳句大会・祝賀会

去る4月25日、当社でお手伝いをしている月刊誌「月の匣」の5周年全国俳句大会・祝賀会がアルカディア市ヶ谷で開催されました。主宰の水内慶太氏からは10年に向けての熱い想いが語られ、句会、祝賀会、二次会まで、誰もがその熱量を落とすことなく語りあった春の宵となりました。



第1回 俳スクール大賞

本紙2～3Pでご登場いただいた「朱鷺」主宰の赤塚五行さんが選者の下記コンクールが初開催となります。俳句の未来をつなぐ金の玉子を発掘できるかも!? ぜひお孫さん、ご親戚等、身近な高校生にお声がけください。

新潟経営大学主催・新潟日報社後援 「高校生の俳句コンクール」

- 応募資格：高校生
 - 応募締切：平成27年9月25日(金)
 - 応募方法：住所・氏名・高校名・学年を明記のうえ下記メールアドレスまたはファックスまで
 ① wadah@duck.niigataum.ac.jp
 ② 0256-53-4544
 - 選者：赤塚五行(「朱鷺」主宰、新潟日報「島の文芸」選者)／和田造(新潟経営大学教授・図書館長)
 - 表彰：最優秀賞「学長賞」図書カード3万円1名／優秀賞「図書館長賞」図書カード1万円5名／入選「表彰状」図書カード3千円10名
- ※10月24日(土)15時より表彰式
 【お問い合わせ】新潟経営大学「俳スクール大賞事務局」
 電話 0256-53-3000 まで

第9回 新潟出版文化賞作品募集

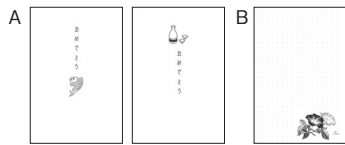
新潟県民の方が対象となりますが、標記文化賞の自費出版の本を募集しています。応募要項、応募用紙をご希望の方は当社宛てにご連絡ください。
 応募資格：新潟県内在住者の執筆による…他
 募集部門：文芸部門／記録誌部門
 選考委員：作家 新井満…他
 締切：平成27年7月31日(金)締切



オリジナルポストカード2種を好評発売中!

ご好評をいただいている当社オリジナルポストカード。同封のアンケート用紙にご希望の種類、セット数を明記のうえ、**必要金額分の切手**を同封のうえ封書にてお申し込みください。

- A 活版印刷(おめでと)：鯛・とっくり各3枚計6枚入り1000円
- B 季節のポストカード (今回は夏バージョンより「朝顔」を同封) 8枚入り500円



第6回 良寛・国上寺全国俳句大会

来たる9月23日(水)、良寛さまゆかりの国上寺・五合庵で開かれる「第6回 良寛・国上寺全国俳句大会」のチラシ兼当句用紙を同封いたしました。賞や様々な特典もありますので、ふるってご投句ください。

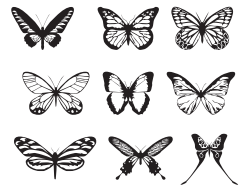
※訂正 前号15P「第14回方代の里なかみち短歌大会」記事中の甲府市長賞は、事情により該当者はなしとなりました。

スタッフの一言

Q.6月に祝日をつくるとしたら何の日になりますか？

※スタッフY作成のかたつむりの折り紙とスタッフK持参のオカリナを持って

<p>木戸敦子</p>  <p>「本の日」「睡眠の日」をミックスしたような「晴眠雨読の日」。これで積読と睡眠不足を解消!? その日は眠と読以外しちゃダメ! な日なら冷えた白ワインをお供に読んで寝て…あ〜天国かも♪</p>	<p>古川久美子</p>  <p>何の日でも良いけど、連休じゃない方がいいなー。第●水曜日とかで何等かのお休みを作って下さらないかしら。連休は連休で良いんですけどね〜。</p>	<p>菅真理子</p>  <p>「平和の日」。わざわざ休みにするのだから、最も尊いものを。「健康の日」もいいと思いましたが、これで医療機関が休みになっては困る。う〜んやっぱり普通が一番ありがたい!</p>	<p>山田千秋</p>  <p>梅雨どきの6月、じめてして体調も今一つになりがちな季節にそれをうけとめて楽しむ「でんでんむしの日」「紫陽花の日」「アンブレラの日」「ながぐつの日」はどうでしょう? 季節の移り変わりの日も祝日としている日本国。風流でしょう?</p>	<p>木伏美美恵</p>  <p>自分ではあまり思いつかず。お客様のご意見でいいな〜と思ったのは「家族の日」。日頃あとまわしにしている家族に感謝し、一緒に食事をしたい。でも、この日一日は穏やかに、喧嘩にならないように気をつけて疲れるかも。</p>
<p>上村真智子</p>  <p>「空の日」寝っころがって青い空を流れる白い雲をぼーっと見るのが好き! そのままいたい昼寝に入るのだが…忙しい日々を送る現代人に必要なのは、そんなゆとりある時間の過ごし方。</p>	<p>金子ゆり子</p>  <p>「映画の日」でしょうか? 梅雨で山もダメ、家の中だとジメジメしそうなので、ちょっと外に出て映画館へ。たまにはゆっくりと一人で観たいものです。</p>	<p>石山由希子</p>  <p>ウドクの日…やっぱり晴耕雨読です。梅雨を祝日で盛り上げます。そのまま読書でもしますか。でも、決められちゃうとできないんだなあ、これが。掃除とか昼寝とか、車でお出かけもステキ。紫陽花でも見に行きましょうか。</p>	<p>吉田瞳</p>  <p>つい先日実母とこんな話をしていたのでコレ「主婦が楽しめる日!!!」あえて父の日がある6月にして、世の女性が一日だけは家事を休んで、お洒落して贅沢して自由にさせてもらえる日があるといいな〜。</p>	 <p>GW秋田県の象潟蚶満寺にて。お花に囲まれ女の子ポーズ♡3歳9ヶ月</p>



詠み人の『リレーエッセイ』

収集癖

収集癖といつていいものなのかどうか、小さな頃からやたらと物を集めては保管しておくことに興味があった。ドリンクの王冠を集め、ウルトラマンの怪獣消しゴムを集め、スーパーカーのカードを集めた。昆虫採集に嵌っていた熱量も、父親から蝶の展翅の技術を教わり、自分でコレクションを管理できることを自覚してからいつそう加速していったように思う。自分が展翅した蝶を、展翅板からドイツ標本箱に移す時は、一直線に配置することに心を留め、その緊張感のうちに自分だけの喜びをかみしめていた。

いい大人になった今でも、とあるグラフィックデザイナーがナンバリングしている作品を収集するのが大好きだ。イベントのフライヤーやポスター、CDのジャケットなど、新しい作品が発表されるとその収集方法を調べ上げ、見つけるとうっとりして手にとってしまう自分がある。そうやって思えば音楽データや、テレビ録画のハードディスクの中身だって全部そうだ。自分のお気に入りの曲とコンテンツで、いつも容量はいいところまでできている。集めては並べ、並べては集め、ファイルし、見出しをつけて整理する。そうそう毎日見るものでもないし、手に取るものでもない。集めることが楽しい、集めることで癒される。これってやっぱり、収集癖？

痛快なコラムとアフロヘアでこのところ話題沸騰している、朝日新聞論説委員の稲垣えみ子さん。原発事故のあと、

目黒哲朗

今回が最後となった目黒さんのエッセイ。今後も信州での教員と歌人活動にエールを送ります!! 次回から3回のエッセイを担当してください。18人目の詠み人は「未来」所属の女性歌人です。

様々な電化製品を手放して節電を試みる生活を開拓してきたが、ついに冷蔵庫の電源を抜くという境地にたどり着いたという4月のコラムはひととき話題になった。その一節に私の心はひっかかった。

冷蔵庫とは、時を止める装置であった。まずはいろいろ買いい、とりあえず冷蔵庫。「いつか」の箱といつてもいい。今は使わないが、いつか使う(かも)。冷蔵庫には将来の可能性がいっぱい詰まっている。

「時を止める装置」だなんて、これはまるで自分の日常を言っているのではないかと思った。いつか見るかも、いつか読みたい…。私の生活のめぐりもそんなためにため込んだ「いつか」でいっぱいだ。集めて、集めて、自分のものにして、私もまた「時を止めよう」としていただろうか。そんなことは到底叶わないことを、本当はもう気づいているのに。

歌をつくることはどうか。自分にとってどんなものなのか。作っても作っても満たされることなど決まてないこの営為が、なんだか自分の収集癖にも重なるし、稲垣さんの冷蔵庫にも重なる。短歌を作っていると、そうやっていつもいつでも答えてない問いが私の中に浮かんでくる。作っては並べ、作っては並べ、今晚も「上書き保存」ボタンを押している私がいる。

わたしには風も時間も止められずしだるる花へ娘を抱き上げぬ
『VSOP』

2015. 6. vol.80 (2015年6月10日発行/隔月発行)
●発行・印刷/株式会社ミュージズ・コーポレーション
〒950-0801 新潟市東区津島屋7-29
喜怒哀楽書房 TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550
株式会社ミュージズ・コーポレーション 0120-819-395
e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com
郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社ミュージズ・コーポレーション

編集後記

乳がんになって2年が経つ同級生とゆっくり話す時間があつた。いろんなことを考え、様々な本を読み、改めて自分の命を何に使うか「使命」を考えたという。あたりまえに来月や来年の予定をスケジュールに入れる自分とは、生きる姿勢が違っている気がした。そんな時、目にした言葉。「楽をすると弱っていくだけ。面倒なことをするのが生きるってこと。でも意気込みだけでは生きられない。10年先を見据え、力を蓄え人生を組み立てる」。楽〜に楽〜に生きがちだけど、労してなんぼの人生かと思わせてくれたいい時間だった。しんどいんだね人生は、浪花節なんだね人生は。(木戸敦子)